



秋田県立栗田支援学校

地域支援通信

令和5年度 第3号

令和5年9月1日発行

～栗田から心・かかわり・絆をつなぐ“ライン”を目指して～

今回は、栗田支援学校の高等部の教育相談や入学までの流れ、支援教材について紹介します。

「高等部教育相談、入学者選考までの流れ」

高等部主事 菊地 武

◎秋田市内近隣には、天王みどり学園、附属特別支援学校がありますが、寄宿舍の利用を検討している方や総合サービス科希望の方は、自宅から遠い場合でも栗田支援学校の教育相談を希望される方がいます。

◇栗田支援学校中学部、生徒、保護者、担任も個別に教育相談を行っています。

【教育相談で大切にしていること】

☆高等部卒業後の進路まで考えて、生徒本人が自分の意思で中学校卒業後の進路を選択してほしいことを本人、保護者、担任に伝えています。

他校からの入学生で「親や担任に言われてきたが本当は来たくなかった」「思っていたのと違う」「中学の友達と同じところに行きたかった」等入学後、学習に気持ちが向かない生徒が見られます。

【教育相談からの主な流れ】

5月 教育相談 受付開始（在籍校教頭→本校教頭）

- ・ 1回目：説明、参観（希望学科、普通科第2希望の場合は両科参観）
 - ・ 2回目：体験（総サ：流サや福祉、普通科：作業学習）保護者、担任から聞き取り
- 今年度5～7月の教育相談実施数19名、8～9月の教育相談予定10名（中2が3名）

9月 「令和5年度 秋田県立特別支援学校 幼稚部・高等部及び高等部選考科入学志願者 募集要項」（秋田県公告）

10月 入学者選考に係る体験学習

※教育相談を終えた受検希望者を対象に、普通科及び総合サービス科の体験学習を実施

11月 「秋田県立栗田支援学校高等部 生徒募集案内」

※県教育委員会の承認を受けてからホームページに掲載

12月 総合サービス科：入学願書受付

1月 普通科：入学願書受付

2月 総合サービス科入学者選考 総合サービス科合格者発表 普通科：志願先変更受付

3月 普通科入学者選考 普通科合格者発表 高等部入学説明会

☆高等部入学者選考までの流れは「本校ホームページ」に掲載されていますのでご覧ください。

「読み書き」が苦手な子どもへの支援 どうしていますか？

その…と…き
や…まのう…え



発達性読み書き障害には、音韻処理の不全や視覚情報処理の不全といったディスレクシアの特性があり、読み書きの場面で課題が出てきます。

●読み書きの課題の具体例

- ・平仮名、片仮名が書けない。
- ・文章を単語のまとまりで読めない。
- ・漢字や図形の視写が難しい。
- ・暗算が苦手、九九を唱えることができない。
- ・促音、拗音が抜けたり、誤ったりする。
- ・書いた文字が乱雑になる。
- ・漢字を正しく覚えたり、書いたりできない。



●読み書きの困難がある状態でメモをとると…

- ・書くことに精いっぱい、内容が頭に入らない。
- ・書くことで学ぶ方法が、**学習の障害**になっている。（何回も書いて覚えることが難しい）
- ・書くことが大きな負担になっている。



そのまま続けていると…

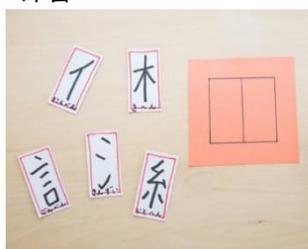
- ・書くことをあきらめてしまう。
- ・あとからメモやノートを見返しても何を書いたか分からなくなる。



先生方はどんな手立てを行いますか？

手立て例

・部首パズル



漢字の部首、パーツの構成を捉えたり、細部に注目したりする。遊び感覚で学べる。

・書く量を減らすワークシート



板書に合わせたワークシートの作成と活用、色分けや写真の視覚支援と貼り付け式で分かりやすく、書くことへの負担を軽減する。

・手元にヒント



かきじゆんこ
カタカナひょう (たくおん)



かきじゆんこ
ひらがなひょう (たくおん)

手元に準備し、文字を書くときにいつでも確認できるようにする。

●発達性読み書き障害の特性である音韻処理の不全について

音韻処理とは、「雨」が「あ」「め」と2つの音からできているなど、ことばが音に分けられることの理解をすること。読み書きに課題がある子どもは、このことばと音への気付き、操作が難しいことが特性のひとつです。音韻認識や文字の取り出し、逆唱などの音韻操作の力が弱いと、文字への関心が起こりにくいと言われています。



特別支援学校の知的障害の生徒を対象に行っている学習ですが、音韻処理や文字への関心につながる手立ての例です。

 <p>マッチングはできるが平仮名の読み書きは、繰り返し学習しても定着が難しい。</p> <p>情報源はイラスト。文字だけだと日常生活の中で見通しをもつことも難しい。</p> <p>イラストをヒントに、文字を単語として認識する。</p>	 <p>繰り返しの学習で読める平仮名が増えた。自分の名前に入っている平仮名は分かる。</p> <p>同じ平仮名でも別の場面に出てくると、読めないことがある。</p> <p>イラストをヒントに、文字を並び替える。</p>	 <p>促音、拗音がある片仮名の読み書きが難しい。ものの名前は分かっていても正しく読み書きができない。</p> <p>目と手を協応させて動かすことが難しく、文字バランスが悪くなる。</p> <p>イラストと単語カードをヒントに文字を書く。</p>
<p>※提示する物を変えるなどして少しでも多くの平仮名、片仮名に触れ、繰り返しの学習で定着を図っています。</p>		



1日20分程度を長期間で繰り返し学習することにより、単語としての認識から一文字ずつの認識、文字の並び替えができるようになってきています。また、音声表出が少なかった生徒が、音の数が合うことも増えてきています。

参考図書 … 遊び感覚で学ぶ方法、授業づくりの参考になる図書です



「発達障害の子の読み書き遊び
コミュニケーション遊び」
品川裕香著
岩崎書店
遊びやゲームで楽しく学ぶ方法、
その効果が載っています。



「怠けてなんかない ゼロシーズン 読む・書く・記憶するのが苦手になるのを少しでも防ぐために」
品川裕香著
講談社
必要なスキル、授業づくりのアイデアが載っています。

相談・見学の希望がありましたら、ご連絡ください

秋田県立栗田支援学校

教頭：相場力 教育専門監：菅原文彦 地域支援部：照井真紀子

〒010-1621 秋田県秋田市新屋栗田町 10-10

TEL：018-828-1162 FAX：018-828-4720 ※相談窓口は教頭まで

ホームページ <http://www.kurita-sakita-pref.ed.jp/> メールアドレス kurita-s@akita-pref.ed.jp